

生後9か月の顔症状が3か月半でみられなくなった乳児アトピーの経過 (1歳3か月男児)

症例 ID：001-01-ZH | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

生後9か月頃、離乳食を進める中で顔が赤くなり、掻きむしって出血し、夜間にシーツへ顔をこすりながら泣いて目を覚ますようになりました。

小児科と皮膚科で卵アレルギーを指摘され、軟膏とステロイド外用薬を使用しましたが、症状が軽くなった後に再び悪化する状態を繰り返しました。その後、松本医院を受診されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	生後9か月頃から顔の症状にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	確認できません。
中止時期	松本医院受診時です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後9か月頃	発症	顔の赤み、掻破、出血、夜間覚醒がみられました。
来院前	外用治療	軟膏とステロイド外用薬を使用しましたが、症状を繰り返しました。
松本医院受診	治療開始	漢方入浴、外用処置などを開始しました。
開始約1か月	皮膚の変化	外見上は症状が分かりにくい程度になりました。
開始約3か月半	経過	顔の症状はみられなくなり、皮膚は滑らかな状態となりました。
記録時	生活変化	掻きむしることがなく、機嫌よく過ごし、卵を少量ずつ摂取しても同様の症状は出ていませんでした。

4. ピーク時期

ピークは、顔が赤くなり、掻きむしって出血し、夜間にシーツへ顔をこすりながら泣いて目を覚ましていた時期です。

5. 困りごと

- 顔を掻きむしり、出血がみられました。
- 夜間にかゆみで目を覚まし、泣く状態が続きました。
- 症状が軽くなった後に再び悪化する状態を繰り返しました。
- 漢方入浴や外用処置を継続する保護者の負担がありました。

6. 経過のまとめ

治療開始約1か月後には、外見上は症状が分かりにくい程度となりました。

約3か月半後には顔の症状がみられなくなり、皮膚は滑らかな状態となりました。掻きむしることなく機嫌よく過ごし、卵を少量ずつ摂取しても同様の症状は出ていませんでした。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。